

運動部活動と地域等の連携の在り方に関する検討会議

【 議事録要旨 】

	現状・課題・意見
<p style="text-align: center;">県教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 国の事業を活用した、休日の部活動を地域に移行する研究では、総合型地域スポーツクラブが受け皿になるパターンと、スポーツ少年団に登録したり、単一クラブを立ち上げたりして、外部指導者の方を中心に運営するというような方向を模索している。 • 地域展開をしていく時に、学校の施設を使って地域部活動を行うのか、地域の施設を使って行うのか、また鍵等の管理はどうするのかという観点も踏まえて研究を進めてほしい。 • 地域によって異なるが、部活動を完全に民間に委託しているところもある。民間の介入をどうするのかという視点も必要である。
<p style="text-align: center;">地域スポーツクラブ等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 市町村などの行政区域を越えての連携が必要となってくる。受け皿の一つとして挙げられているのが総合型地域スポーツクラブであるが、多くは行政の理解と支援を受けて運営しており、受け皿の一つとしていくには行政の支援が欠かせない。
<p style="text-align: center;">中体連・高体連・競技団体</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 専門的な指導ができる顧問が5割弱という数字があるが、中学校ではもう少し低いのが現状である。 • 高等学校は生徒数の減少に比例して、教員の数も減少する。その結果部活動も整理縮小となり、入学してきた生徒が中学校から継続して種目を続けることができなくなる。 • 大会によって顧問引率が条件となっているものや、主催は競技団体であっても、大会運営は教員が行うものもある。
<p style="text-align: center;">各関係団体が連携して 取り組むべき事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 部活動は無料であり、地域移行に伴って発生する受益者負担が課題である。 • 大会の在り方、運営の仕方について大胆な改革が必要である。 • 新しい大会の創出をするという意見も出てきている。クラブでも学校でも誰でも出場できる大会というものを創出するのも一つのアイデアではないか。 • 少子高齢化の進展によって、単独の部活動が成り立たなくなっている。この問題は郡部に行けば行くほど深刻な問題となっている。 • 部活動改革の方向性やスケジュールの見える化が保護者の大半の願いである。どうなっていくのだろうという不安を保護者の多くは感じている。 • 市町村のスポーツを担う部署に何ができるのかということ把握することも必要である。どのような役割を担うことができるのかを考えた上でつながりを深めていくとよい。